東京都立福生高等学校全日制課程　令和５年度学校経営報告

＜目標への取組と自己評価＞

目標と方策	取組と自己評価	達成状況
生徒が能動的に授業に参加し積極的な学習活動を通じて思考力・判断力・表現力を伸ばすことができる授業への改善を図り、教科指導の質を向上させる。また、相互授業見学により授業力の向上を図る。	学習支援サービス Office 365 やクラウドサービス Classi の活用を通して、教育のＤＸを推進するとともに、一人１台端末での新たな学びも２年目となり、各教科における ICT の利活用も進んだが、来年度以降も更なる活用方法の研究は課題である。	B
一人１台端末を活用し、週末などに学習課題などを課しながら、自ら進んで学習する習慣を確立させるとともに、時間を効果的に使う習慣を身に付けさせる家庭学習時間を増加せる。	長期休業中の補習・補講の実施状況 ア　開講講座数　：　延べ　３５　講座 イ　実施日数　：　延べ　１２９　日間 ウ　受講者人数　：　延べ　３１１　人	B
「英語教育研究推進校」として、英語の授業を生徒が英語を使う場とするために、授業改善を行う。また、GTEC により生徒の４技能別英語力を把握し、指導方法を改善するなど英語４技能の力の育成を図り、Ａ２レベルを超える生徒が、１学年１０％以上、２学年３０％以上となるように取り組む。	英語４技能をバランスよく指導し、実践的なコミュニケーション能力を育成する授業の推進に取り組んだ。平成３０年度からGTEC の受検をはじめ、年度を追うごとに数値が上昇していた。昨年度は下がってしまったが、今年度は再び上昇した。昨年度：１年 267 名中７名、２年 223 名中 48 名今年度：１年 272 名中 19 名、２年生 260 名中 76 名	B
「海外学校間交流推進校」として、横田ハイスクールとの定期的交流及びマレーシア、台湾、カナダ、フィリピン等との交流活動を推進する。	姉妹校となった横田ハイスクールとは定期的交流と部活動単位での交流を実施。オンラインによる国際交流は、ビデオレターの交換、クイズ型アプリ・掲示板アプリを活用した交流等の取組の他、COIL 型の授業（オンラインを活用した国際的な双方向に協同学習を行う教育実践）を行った。	A
月１回以上の教科主任会を実施し、教科で模試分析を行い授業改善に活かすなど、組織的な教科指導を行う。また、その状況を全教職員で共有する。	定期的な教科主任会の開催を通して、年間指導計画の作成や観点別評価の検討を組織的に行うことができた。大学進学希望者に対して compass 面談を実施した。教科での模試分析は、来年度の課題である。	B
３年間を見通した進路指導計画と、模擬結果分析による学力の推移の把握、面談を通してのきめ細かな指導により第一志望への進路実現を図る。特に、進学クラスの生徒へは仲間意識を醸成させる。	各学年面談回数 １年　3回　　２年　3回　　３年　2回 進学クラスの生徒たちの受験に対する意識は高くなってきたが、模擬試験の結果にはまだつながっていない。	B
部活動の活動する時間や内容を工夫することで効率的な練習を進め、家庭での学習時間を確保する。学習と両立を進めながら東京都ベスト１６以上又はそれに比肩する結果を目指す。	各部成績　全国大会出場　２部　ダンス部、カヌー 関東大会出場　１部　陸上部 東京都ベスト３２　４部（女バレ、卓球、柔道、陸上） 東京都コンクール金賞　１部（吹奏楽）	A
生活指導指針に基づき、生活指導部と学年が連携して身だしなみ指導や遅刻欠席指導等を実施し、規範意識を育成するとともに基本的な生活習慣の確立を図る。	生活指導部を中心に各学年との連携の下、年間を通して、朝の立ち番や登校指導、遅刻指導を行った。また、始業式・終業式において身だしなみ指導を実施した。校則について見直しを図った。	B
学校 PR 活動を充実させ、地域、近隣中学校、塾等に学校を理解してもらう。ホームページの毎日更新。	ホームページ更新回数 346 回、閲覧回数 594012 回、学校説明会参加者数 2000 人、塾訪問校数 169 校。学校 PR 活動は効果的であった。	A
いじめ・体罰を許さない校内の雰囲気を教職員・生徒・保護者で共有し、多様な価値観を認め合う指導を行う。	福生市いじめ防止サミットへの生徒参加や、東京都いじめ防止協議会高校生委員に参加し、生徒の中からいじめを防ぐ意識が高まった。	A
生命を尊重する心の育成やＳＯＳの出し方に関する教育などストレスへの対処方法を身に付けさせ、自殺予防を図り、特別支援教育など生徒一人一人に合わせた教育を行う。	セーフティ教室やＨＲ活動を通してＳＯＳの出し方に関する指導を行った。心配な生徒の状況については全教員で情報共有を図った。	B
体力テストや体育祭等の体育的行事を計画的に実施し、体力や健康に関する意識啓発を図り、一層の体力向上を目指す。	部活動指導員の拡充を図り、限られた時間を有効活用する指導体制を整え、効率的な部活動指導や一層の体力向上に努めた。その成果として、一部の部活動で優秀な成績を収めることができた。	B
計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。また、年次有給休暇の計画的な取得を推進する。	産業医による面接指導の実施や出産支援休暇の取得促進など、教職員一人ひとりの働き方・休み方の改善・支援に努めた。１５日以上の年休取得者２８名、男性教職員の子どもの看護休暇取得６名、出産支援休暇取得１名。	B

＜学校運営連絡協議会委員評価＞

学校が良くなったと答えた協議委員（全７名）　　そう思う　５名　　どちらとも言えない　２名

＜数値目標とその結果＞

令和５年度の実績			４年度←３年度←２年度←元年度
①	生徒の授業満足度	86. 4%	88. 9%←87、1%←76%　←78%
②	進路決定率	93. 4%	94. 7%←93. 1%←83%　←84%
③	4年制大学進学率	45. 2%	47. 2%←45%←40%　←　35%
④	GMARCH現役合格者数	2名	7名　←1名　←0名　←0名
⑤	部活動加入率	79. 3%	82. 2%←82. 9%←82. 3%　←　84%
⑥	推薦入試倍率	2. 82倍	3. 55倍←2. 93倍←2. 83倍　←　3. 6倍
⑦	一次学力入試倍率	1. 29倍	1. 25倍←1. 23倍←1. 19倍　←　1. 3倍
⑧	学校説明会参加者数	2000名	1720名←1222名←1200名　←　1041名

＜次年度以降の課題と対応策＞

項目	課　題	対応策	重要度
学習指導	進路実現に向けた取組	①　外部模試を活用した生徒の学力分析を行い、学力の到達目標を具体的に設定し共有することを通して、組織的な授業改善を進める。 ②　「生徒一人一台端末」を活用した授業を工夫し、個別最適化の学びを推進し、生徒の学力向上とともに教員の指導力向上に取り組む ③　グランドデザインに基づいた計画的な教育活動、学習指導を実践する。 ④　学校での補習・補講のみならず、家庭での学習時間の確保に工夫・改善を図る。	A
進路指導	進路に対する意識向上と進路実現	①　３年間を見通したキャリア教育の全体計画を再度見直し、生徒の実態に即して適宜修正を加えるとともに、進路指導部主導の進路活動や進路行事を組織的に行う。 ②　４年制大学進学希望者の仲間意識を醸成するための進学クラスを一層充実させ、計画的な進路指導を通して生徒の進路に対する意識向上を図るとともに、生徒一人一人の状況を全教員で共有し個に応じた支援に努め、生徒の希望進路を実現する。 ③　保護者へ向けた進路情報の発信の充実や、保護者への進路に関する啓発活動など保護者との連携した指導を充実させる。	A
特別活動	部活動の活性化	①　定時制併置校のため、平日の活動時間に制約がある中、活動内容を常に見直し、短時間で効率的な活動を行うよう工夫改善を図る。 ②　市民文化祭への参加や地域の小中学校との連携など、地域に開かれた部活動を推進する。 ③　部活動指導員など外部指導者を有効に活用して、部活動顧問の負担軽減を図る。	B
その他	働き方改革の推進	①　必要に応じて産業医による面接を実施し、計画的な年休取得を促進することにより、心身の健康の保持・増進を図る。 ②　職層に応じた役割分担を明確にし、業務改善に組織的に取り組むことにより、業務の効率化を図り、在校時間の削減に努める。	A
	いじめ対策	①　いじめ総合対策に基づく校内研修を実施し、全教員でいじめを未然に防止する校内体制を整える。 ②　学級活動や部活動、学校行事など、様々な機会を捉えて、豊かな人間関係構築の取組を推進する。 ③　いじめや自死の抑止に向け、生徒がＳＯＳを発信しやすい学校づくりやＳＮＳ東京ルール周知徹底の取組を強化する。	A
	発達障害の疑いがある等課題のある生徒への対応	①　不登校傾向や発達障害の疑いのある生徒に対して、担任・特別支援教育コーディネーター・ＳＣ等が連携をとり、すべての教職員が情報の共有を図ることができる校内体制を確立する。 ②　学級担任と保護者との連携を密にし、必要に応じて外部機関との連携を図り、生徒への適切な支援に努める。	B